

Historical Tidbits

町田は昔、神奈川だった!?

1885~86年、コレラが大流行し、東京府の水源地である玉川上水の上流、青梅のあたりで患者の下着を洗ったという噂で東京は大パニックになりました。衛生管理の観点から、東京府は玉川上水の管理を国に訴えるも却下、しかし1892年に多摩川と玉川上水を含む三多摩を東京府へ移管する法案が国会に提出され、武相には激震が走ります。実際、南多摩郡は玉川上水とは無関係のエリア。水質管理とは表向きで、南多摩郡をはじめとする神奈川県の自由党勢力の弱体化を狙った方策だったと言われています。南多摩郡では猛反対が起こり、町田村や堺村の村長たちは任期を待たずに辞任、役場も閉鎖して地方行政をストップさせました。しかし、最後まで抵抗した自由党の強い反対を退け1893年2月、法案は成立。4月に三多摩は東京府へ移管、町田地域の人も神奈川県民から東京府民になりました。



黒い煙の蒸気機関車が東神奈川駅から八王子駅まで走ったのは明治41年(1908)。当初は「八浜線」と呼ばれ、町田に出来た駅は原町田と相原の2つ。原町田から八王子までの運賃は約20銭、当時の肉休労働者の日当とほぼ同じで、一般人には高嶺の花だった。昭和2年(1927)には小田急線が開通。計画では今より南方の神奈川県内を走る予定だったが村野常右衛門の働きで現在の路線が実現した。町田-新宿間は54分で運賃は58銭。鉄道の発達により当時十数軒あった宿屋は3軒に、人力車も姿を消し、商店と人口が増えていった。



1. 開業早々、赤字が続いた横浜線。大正8年頃には原町田駅の乗降客は1日約200人。写真は昭和初期の原町田駅。2. 屋根のカーブが特徴的な小田急線の新原町田駅(昭和20年頃)

05 横浜線と小田急線

そして町田市の誕生



多摩郡小山村(現・小山町)の近藤周助の養子・近藤勇は小島家を36回訪れた。右は小野路宿通り



炭精館(左)を建て若き民権家を育てた村野常右衛門。神奈川県議員の後、衆議院議員を8期務めた

03 活気に溢れた近世の野津田・小野路

江戸時代、鎌倉街道の宿として賑わった小野路。ピーク時には6軒の旅籠があった。徳川家康の遺骸を日光へ運んだ御尊厳御成道も小野路を通り、後の新選組局長・近藤勇も小島家を繰り返し訪れた。布田道が鎌倉



野津田公園入口近くの小野路一里塚

街道にぶつかる手前、山を削り取った断面と大木の根が力強い関屋の切通しは必見だ。また、明治初期から盛んになった自由民権運動が活発だったのもこのエリア。その最高指導者・石坂昌孝は野津田出身。近くにはゆかりの史跡も多数存在する。同じく野津田出身の村野常右衛門は炭精館を建て、若き民権家の育成に励んだ。自由民権資料館には貴重な史料が実に沢山。町田の歴史を辿るなら是非併せて訪れたい。

1477年(文明9年) 前年に起きた長尾景春の乱により小山田城が陥落。小野路城も落城した
1532年(安永5年) 武田に組み込まれた近江の豪族・三浦新右衛門が落ちのびてきて原町田に居を構えた
1582年(天正10年) 原町田が町田村(本町田)から独立、1586年から「二の市」始まる
1617年(元和3年) 3月21日、徳川家康の遺骸が小野路を通る
1786年(天明6年) 1783年の浅間山の噴火で市城にも火山灰が降り積もり、86年の大雨では境川の氾濫を招いた
1852年(嘉永5年) 1852年から11年間で近藤勇36回、沖田総司12回、土方歳三が11回、小島家を訪れる
1859年(安政6年) 横浜開港シルクロードの中継地として栄えはじめる
1866年(慶応2年) 小野路農民隊が組織される
1868年(慶応4年) 小野路農民隊が小山村まで出陣、近藤勇の指令を待つも参加できず後に解散する

04 商都町田の起源は鎌倉街道、二・六の市そしてシルクロード

Historical Tidbits

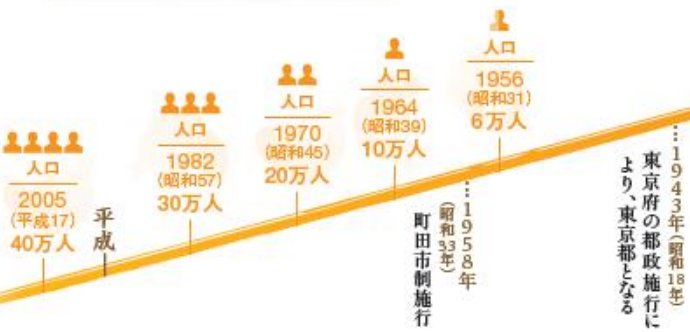


石坂昌孝氏(通称しょうこうさん)は野津田村丸山(現・野津田町)生まれ。生後7日で野津田村賑沢の母方、石坂昌吉家の養子となりました。石坂市長は野津田町でも並木の出身。昔から石坂姓が多い地域ですが、市長が昌孝さんの子孫?という答えはノーです。でも何百年か遡ればどこかで親戚関係だった可能性も。因みに市長のクラスメート石坂至孝さんは曾祖父が昌孝さんのお兄様。今でも昌孝さんの生家の隣にお住まいです。

「相の原」と呼ばれる牛馬の飼料の供給地だった林場を開発し、町田村(現・本町田)から独立して原町田が出来たのは天正10年(1582)。原町田活況の基盤はその時、本町田の市を分けてもらって始めた「二の市」、後の「二・六の市」に、横浜開港以降のシルクロード中継地という役割が加わったこととされている。また、原町田6丁目、現在の市民交番サルビアがある交差点は鎌倉時代に出来た2つの鎌倉街道がぶつかる場所。府中から続く鎌倉街道上道と青梅や八王子から続く鎌倉街道山ノ道の交差点はその後も多くの人々が往来し、原町田興隆のベースとなっているのだ。



写真家のペイトによる江戸末期の原町田(右)と昭和初期の二・六の市



明治 1868年(明治元年) 市城が神奈川県の管轄に入る
1878年(明治11年) 7月22日 郡区町村編制法により南多摩郡に属する
1889年(明治22年) 4月1日 町村制施行で町田村、鶴川村、忠生村、南村、堺村の5村となる
1893年(明治26年) 4月1日 市城を含む三多摩郡(南多摩郡、北多摩郡、西多摩郡)が神奈川県から東京府に移管
1908年(明治41年) 9月23日 横浜鉄道東神奈川駅-八王子原町田駅、相原駅ができる
大正 1913年(大正2年) 町田村が町田町となる
昭和 1927年(昭和2年) 小田急線が開通する
1943年(昭和18年) 東京府の都政施行により、東京都となる
1958年(昭和33年) 町田市制施行

- 1. 森野の妙延寺も昭和20年5月の空襲で山門以外全て焼失した
- 2. ポツダム宣言受諾を世界に向け発信した相原町の「多摩送信所跡」記念碑



太平洋戦争の頃になると、物資不足から市の出店数が激減、昭和19年(1944)6月に360年程続いた市は幕を閉じることになった。一方、21の寺に689名の児童が疎開、昭和20年(1945)4月には国師に2発の1トン爆弾が投下され、防空壕で2人の女生徒が死亡した。5月には本町田や森野、能ヶ谷、小野路にも空襲があった。

HISTORY

参考 町田市「町田市史 上・下巻」「町田の歴史をさぐる」「町田の歴史をたどる」 商都まちだの歴史館「町田風土記」ほか 掲載内容は歴史書等に基づいており、誤謬あります

HISTORY

掲載内容は歴史書等に基づいており、誤謬あります